

鉄道駅におけるバス案内サインの検討について

モビリティマネジメント推進部会では、市民に今以上に公共交通を利用してもらうために、バスの乗換案内表示は重要と考えています。また横浜を訪れる観光客の増加も踏まえ、在住者、来街者ともにわかりやすい案内表示があることで、より公共交通の利便性が向上することが期待されるため、バス案内サインについて検討を進めています。

今年度は、次の取組を行いました。

1. JR鶴見駅を例にしたフィールドワークの実施

モビリティマネジメント推進部会では、バス案内サインの実態を把握するために、JR鶴見駅でのフィールドワークを行い、バス案内サインの現状について調査です。

(1) 西口バスターミナル

JR鶴見駅西口のバスターミナルについては、改札からバス乗り場までの案内は複数ありますが、矢印のみの誘導(①、③、④、⑤)であり、どこまで行けば到達できるか把握しにくい状況です。



④



⑤



また、バスターミナル直上についても、バス乗り場を案内する看板はありますが、情報が少ないため、階段を下りた先にある、実際の停留場まで行かないと、時刻表等の詳細な情報を把握できません。

⑥



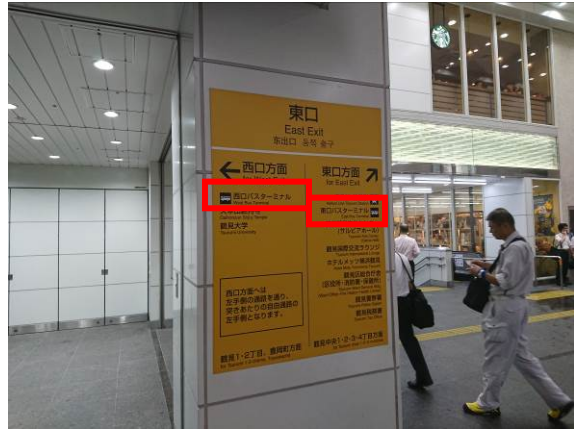
(2) JR鶴見駅東口（京急鶴見駅前）バスターミナル

東口バスターミナルは、再開発事業に合わせて比較的最近再整備されたバスターミナルであり、JRの改札を出て、目の前の階段を下りた先に、バスターミナルの全景図と、乗り場や系統番号、行先、経由地などの情報が記載された案内があり、目的のバス乗り場まではスムーズに向かえます。

⑦



⑧



⑧



⑨



⑨



⑨



2. フィールドワークの振り返り

西口については、立地や案内の情報不足から課題が多くあり現状では利用しにくい状況です。また東口については、ある程度整備されており、バスターミナル内では情報は充実していました。

しかしながら、東西を統括した案内が無く、実際に乗りたいバスがどちらのターミナルで乗れるのかは、それぞれのバスターミナルまで行かないと把握できない状態となっています。

さらに、東西自由通路が整備されていますが、出口を間違えると行き来が困難であり、特に西口のターミナルは、駅から少し離れているため、ターミナルで間違えに気づいてから移動するには、かなりの負担になると思われます。

以上のように、複数のバスターミナルがある駅では、ホーム上や改札を出てすぐの位置に、「どのバスターミナルに目的地へ行くバス乗り場がある」のか判断できる案内が必要です。

また、サインのデザインや乗り場番号を連番にする等、それぞれのバスターミナルが連携する事で、より分かり易い情報を提供する事が出来ます。少し離れた（または案内と乗り場のフロアが異なる）バスターミナルの場合、目的のバスが次に発車する時刻が分かると、安心して乗換がしやすくなると思います。

3. 今後の活動について

今回、鶴見駅を例にしてフィールドワークを行い、基本的な事項や課題は抽出されました。

また当部会で議論した中では、駅の案内サインのあり方を検討する上で、次の項目の整理が必要ではないかと意見がでました。一つ目は駅を属性や構造毎に分類して整理する事、二つ目は、各駅の状況を評価するために、基準となる評価指標を作り、駅毎に評価してまとめる事です。

今後は、以上を進めていき、市内の駅を整理した上で、駅に求められる案内サインについて検討していきます。

なお、当部会だけで進めるには限界があるため、ある程度の形になった段階で、交通事業者の協力を得て、協働で進めていく事も視野に入れていきます。